

談会

座

21世紀型の保育園の姿を提案しよう

今、なぜ「子育てルネッサンス運動」なのか

〔出席者〕

大日向雅美

恵泉女学園大学・大学院教授

汐見稔幸

東京大学大学院教授

森上史朗

子どもと保育総合研究所代表

〔司会〕

平野弘和

全私保連広報部部長／千葉・岩根保育園園長

全私保連では、平成十七年度から「子育てルネッサンス運動」を始めました。「この運動が今、なぜ必要なのか」ということを全国の会員の皆さんにご理解いただきたいと思い、この座談会を企画しました。

この運動の三つの柱は、次の三点です。

子ども自身の生きる力の再生

家庭の子育て力の再生

子どもと家庭を支える地域の再生

「今更…」と思われる方もいらっしゃるでしょう。しかし、思春期の青少年による考えられないような凶悪犯罪、ニートの増加など、乳幼児期における大人のかかわり方が問われるような事件や行動が社会問題になってきています。

こうした現代社会の中で、私たち認可保育園は、これまで以上に重大な役割を果たすことが求められてきています。



子どもたちの現在と その背後

司会／まず、子どもたちの置かれている状況について、お話を伺いたいと思います。

汐見／思春期の子どもが、大人の想像力を超えるような事件を起こしてしまうというのは、突然起きることではなくて、我々が想像できないような心の葛藤などがきっかけになって、それに性的な成熟、自立していかなければいけない圧力などが複雑に絡んで、自分でも説明のつかない行動をしてしまうのではないか、というように思っています。

ただ、そういう行為が生まれてくるきっかけ